

ギャラリーあしやシューレでは、2021年11月14日（日）より12月19日（日）まで、岡崎和郎と小川信治による「Behind the Garden」展を開催致します。



岡崎和郎 “薔薇と頭蓋骨” 2020

小川信治 “Lovers 2” 2019 - 2020

撮影：来田 猛

< 展覧会情報 >

岡崎和郎 / 小川信治 Behind the Garden

2021年11月14日（日） - 12月19日（日）

開廊時間：日曜日 - 水曜日 11:00 - 17:00 / 土曜日予約制

休廊日：木曜日・金曜日

Galerie Ashiya Schule ギャラリーあしやシューレ

〒659 0016 兵庫県芦屋市親王塚町 3-11

Tel/Fax : 0797-20-6629

E-mail : info@ashiyaschule.com

URL : <http://ashiyaschule.com>

「御物補遺」の概念を1963年に発表し、オブジェを通して、精神や意味の余白を補完する作業を続ける岡崎和郎 (b.1930)。その思想は、HISASHIの制作をはじめ、手の痕跡や自然物の引用へと展開し、「補遺の庭」を作り上げてきました。

本展では、「薔薇と赤い頭蓋骨」をはじめとする「江戸の狂花」に因むオブジェとともに、仮面・画中画北斎などで構成された補遺の庭を繰り広げます。

世界の構造や在り方を模索し、この世界と異なる別の時空が同時に存在するパラレルワールドを描き出す小川信治(b.1959)。超絶技巧による鉛筆画は、時空の裂け目を垣間見せ、見るものを多元的な宇宙へ導きます。

二人の作家による、未だ見たことのない世界の裏側 Behind the Garden へ、ようこそ。

岡崎和郎 Kazuo Okazaki 略歴

- 1930年 岡山市奉還町（現在の岡山市北区奉還町）に生まれる
- 1950年 岡山県立岡山操山高等学校を卒業。早稲田大学に入学。大学時代に雑誌『詩と詩論』を集め、モダニズム詩に親しみ、滝口修造の『近代芸術』を愛読。ダダとシュルレアリスムに関心を抱く。
- 1955年 早稲田大学文学部芸術学専攻を卒業。同大学文学部大学院に進み、美術史を学ぶ。
- 1956年頃 鉄の彫刻を始める。
- 1957年 大学院を中退。岡山にて本格的に鉄の彫刻を制作。
- 1958年 第10回読売アンデパンダン展に「生きもの」を出品。海頭日出男と知り合う。ミシェル・タビエが新聞評で言及。
- 1959年 第11回読売アンデパンダン展出品の「平面彫刻」を滝口修造が新聞評で言及。
- 1963年 この頃から、オブジェという言葉に、補遺という言葉を組み合わせた「御物補遺」という概念のもとに制作を始める。
- 1965年 この頃、滝口修造と個人的な親交を深める。
- 1966年 東京画廊で初の個展を開催し、オブジェを発表。
- 1967年 「OKAZAKI GIVEAWAY」を鈴木亘、岡崎球子と設立。
- 1977年 1月 数年かけて滝口修造と共同制作したマルセル・デュシャンへのオマージュ作品「検眼図」が完成。
「マルセル・デュシャン展」(ポンピドーセンター)を訪れた東野芳明が1点をデュシャン夫人に渡す。
7月 「検眼図」をフィラデルフィア美術館へ持参。渡米に際し、「LIBERTY PASSPORT 岡崎和郎のために」が滝口修造から贈られる。
このころ、75年頃から試みていたHISASHIシリーズの制作を本格化する。
- 1978年 東京・神宮前に自ら企画・運営する「OKAZAKI KAZUO'S SUPPLEMENT GALLERY」開く。
- 1989年 「HISASHI」による個展が、横田茂ギャラリーで開催。
- 1994年 磯崎新設計の奈義町現代美術館が開館し、「月」―補遺の庭：休息のために HISASHIとベンチが与えられたとせよに「HISASHI-補遺するもの」と題する「HISASHI」を制作。
- 1997年 倉敷市立美術館で回顧展。
- 2003年 「滝口修造生誕100年記念講演会 滝口修造とオブジェの世界」を慶応義塾大学で講演。
- 2010年 「岡崎和郎展 補遺の庭」が神奈川県立近代美術館 鎌倉で開催。
- 2011年 屋外彫刻作品「富士山 讃(富士見定規)」が御殿場市富士山交流センターに恒久設置。
- 2015年 「有為自然―岡崎和郎、伊勢崎淳、中西夏之展 すべてとつながり、場がうまれ、ともに生きる」展が、岡山県立美術館で開催。
- 2016年 「見立ての手法―岡崎和郎 Who's Who」が、千葉市立美術館、北九州市立美術館で開催。

個展

- 2021年 「岡崎和郎」横田茂ギャラリー（東京）
- 2020年 「岡崎和郎 補遺の庭-存在論的」横田茂ギャラリー（東京）
- 2018年 「岡崎和郎 御物補遺」ギャラリーあしやシューレ（兵庫）
「岡崎和郎 ひさし・枝・空気」横田茂ギャラリー（東京）
- 2017年 「岡崎和郎—HISASHI」ozasakyoto（京都）
- 2016年 「岡崎和郎 Who' s Who - 見立ての手法」北九州市立美術館（福岡）
「岡崎和郎 御物補遺」ギャラリーあしやシューレ（兵庫）
「岡崎和郎 Who' s Who - 見立ての手法」千葉市美術館（千葉）
「岡崎和郎 心器考」横田茂ギャラリー（東京）
- 2015年 「岡崎和郎 御物補遺」ギャラリーあしやシューレ（兵庫）
「岡崎和郎 ピートモンドリアンのいま」横田茂ギャラリー（東京）
- 2014年 「岡崎和郎 絵葉書富岳三十六景考」横田茂ギャラリー（東京）
- 2013年 「岡崎和郎 心・棒・考」横田茂ギャラリー（東京）
- 2012年 「岡崎和郎 物物語考 - 虫の知らせ -」横田茂ギャラリー（東京）
- 2011年 「岡崎和郎 -図書館プロジェクト」世田谷区立玉川台図書館（東京）
「岡崎和郎 富士見定規を中心として」横田茂ギャラリー（東京）
「岡崎和郎展『一節一葉』」ギャラリエ・アンドウ（東京）
- 2010年 「岡崎和郎展 補遺の庭」神奈川県立近代美術館 鎌倉（神奈川）
「岡崎和郎 補遺としての写真」横田茂ギャラリー（東京）
- 2009年 「岡崎和郎展『黒い雨によせて』もう一つのヒロシマドーム」ギャラリエ・アンドウ（東京）
「岡崎和郎 林檎 -ウィリアム・テルによせて」横田茂ギャラリー（東京）
- 2008年 「岡崎和郎 “さるのこしかけ” が与えられた時、補遺の庭に立ち現れた三つの知覚像」
横田茂ギャラリー（東京）
- 2007年 「岡崎和郎」横田茂ギャラリー（東京）
「岡崎和郎」ギャラリエ・アンドウ（東京）
- 2006年 「岡崎和郎」京都精華大学ギャラリーフロール（京都）
「岡崎和郎 補遺の庭 - HISASHI と水と -」横田茂ギャラリー（東京）
- 2005年 「岡崎和郎」ギャラリエ・アンドウ（東京）
「岡崎和郎 補遺の庭 -P モンドリアンの風景」横田茂ギャラリー（東京）
- 2004年 「岡崎和郎 補遺としての鏡」横田茂ギャラリー（東京）
- 2003年 「岡崎和郎」ギャラリエ・アンドウ（東京）
「岡崎和郎」横田茂ギャラリー（東京）
- 2002年 「岡崎和郎 刻印された雨」横田茂ギャラリー（東京）
「岡崎和郎展」ギャラリエ・アンドウ（東京）
- 2001年 「HISASHI 光と影を割かつもの」奈義町現代美術館（岡山）
「岡崎和郎 贈物」吉備高原アートハウス（岡山）
「岡崎和郎 HISASHI 2001」横田茂ギャラリー（東京）
- 2000年 「MULTIPLE PROJECT 岡崎和郎マルチプル 1963-2000」横田茂ギャラリー（東京）
「岡崎和郎」ギャラリエ・アンドウ（東京）
「岡崎和郎 ものの記憶」横田茂ギャラリー（東京）
- 1999年 「補遺の庭 天に」ヒロ・ナカシゲギャラリー（岡山）
「岡崎和郎 補遺の庭 天に」横田茂ギャラリー（東京）
「岡崎和郎」ギャラリエ・アンドウ（東京）

- 1998年 「岡崎和郎 Who's Who」 横田茂ギャラリー（東京）
「HISASHI + 御物補遺」 コオジ・オグラギャラリー（名古屋）
「HISASHI」 ヒロ・ナカシゲギャラリー（岡山）
- 1997年 「岡崎和郎」 天満屋岡山店美術ギャラリー
「岡崎和郎」 倉敷市立美術館（岡山）
- 1996年 「岡崎和郎 補遺の庭」 横田茂ギャラリー（東京）
- 1995年 「pax 岡崎和郎 黒い雨によせて」 横田茂ギャラリー（東京）
- 1994年 「岡崎和郎 hisashi 有機的記憶について」 横田茂ギャラリー（東京）
- 1993年 「シリーズ [物補遺] ヒロ・ナカシゲギャラリー（岡山）
「岡崎和郎 hisashi 補遺するもの」 横田茂ギャラリー（東京）
- 1992年 「岡崎和郎」 横田茂ギャラリー（東京）
- 1991年 「物補遺」 ギャラリームカイ（東京）
「岡崎和郎」 横田茂ギャラリー（東京）
- 1990年 「岡崎和郎 物 補遺」 横田茂ギャラリー（東京）
- 1989年 「岡崎和郎 hisashi」 横田茂ギャラリー（東京）」
- 1979年 「GARASU」 サプリメント・ギャラリー（東京）
- 1978年 「HINOMARU」 サプリメント・ギャラリー（東京）
「HISASHI」 サプリメント・ギャラリー（東京）
- 1966年 「岡崎和郎」 東京画廊（東京）

パブリックコレクション

S-HOUSEミュージアム

大分県立美術館利岡コレクション

神奈川県立近代美術館

京都精華大学

慶応義塾大学

倉敷市立美術館

国立国際美術館

高松市美術館

千葉市美術館

東京国立近代美術館

東京都現代美術館

富山県立美術館 滝口修造コレクション

豊田市美術館

奈義町現代美術館

パーフェクトリバティエー教団

北海道立近代美術館

フィラデルフィア美術館（アメリカ）

富士山交流センター「富士山樹空の森」

富士ゼロックス版画コレクション

町田市立国際版画美術館

1959年山口県生まれ

1983年三重大学教育学部美術科卒業

個展

- 2018年 「Behind You-巨匠と王女たち」 ギャラリーあしやシューレ (兵庫)
- 2017年 「干渉法-鏡像とロンドによる」 MAHO KUBOTA GALLERY (東京)
- 2016年 「小川信治展あなた以外の世界のすべて」 千葉市美術館(千葉)
「Mirror」 AISHONANZUKA (香港)
- 2015年 「Secret Mirror」 STANDING PINE (愛知)
- 2013年 「世界線の眺望」 鎌倉画廊(神奈川)
「Projection」 みうらじろうギャラリー (東京)
- 2011年 「Shinji Ogawa Behind You/Closed Book」 Yumiko ChibaAssociates viewing room shinjuku (東京)
- 2008年 「Shinji Ogawa -Realizm perwersyjny」 Bunkier Sztuki(クラクフ、ポーランド)
「SOUVENIR」 コウイチ・ファインアーツ(大阪)
- 2007年 「French Milk Crown, 2001」 ヴァイスフェルト(東京)
- 2006年 「小川信治展—干渉する世界—」 国立国際美術館(大阪)
- 2005年 「家族の肖像-分岐する世界と統合する意識-アーティスト小川信治と11人の名大生によるコラボレーション」 名古屋大学博物館(愛知)
- 2004年 「小川信治展-春信・連続体-」 コウイチ・ファインアーツ(大阪)
「双眸」 コウイチ・ファイン・アーツ(大阪)
「ペインティングの仕事-「春信連続体」を中心として」 絵馬・代官山(東京)
- 2003年 「個展」 ときの忘れもの(東京)
「ゾンダー・ヤウ」 レントゲンヴェルケ(東京)
- 2002年 「Souvenir/Souverain」 豊田市美術館(愛知)
- 2001年 「双眸シリーズ」 コジオ・オグラギャラリー (東京)
「個展」 ギャラリー16 (京都)
「小川信治展 二つの点」 ギャラリーキャプション(岐阜)
「佐久島 2001 祭りとアートに出会う島」
「三河・佐久島アートプラン 21」 弁天ギャラリー (愛知)
「ゾンダー・ヤウ」 レントゲンクストラウム(東京)
- 2000年 「ゾンダー・ヤウ」 レントゲンクストラウム(東京)
「個展」 ときの忘れもの (東京)
現代美術館・名古屋 ヴィデオルーム (愛知)
- 1999年 「個展」 ギャラリーキャプション (岐阜)
- 「個展」 ギャラリーほそかわ (大阪)
- 1997年 「個展」 ときの忘れもの (東京)
- 「個展」 西田画廊 (奈良)
- 1995年 「個展」 ギャラリーセラー (愛知)

グループ展

- 2018年 「高松市美術館コレクション+(プラス)木村忠太とこぼれる光のなかで」 高松市美術館 (香川)
「視覚芸術百態：19のテーマによる196の作品」 国立国際美術館 (大阪)
- 2017年 「Art in Art」 Museum of Contemporary Art in Krakow (クラクフ、ポーランド)
「オープン・ウィークひらかれた美術の9日間」 東京ステーションギャラリー (東京)
- 2016年 「L' arte differente: MOCAK al MAXXI」 MAXXI イタリア国立21世紀美術館 (ローマ、イタリア)
「蜘蛛の糸」 豊田市美術館 (愛知)
「高松市美術館コレクション展—いま知りたい、私たちの「現代アート」」 高松市美術館 (香川)
- 2015年 「高松市美術館コレクション展 2 (前期) ひとつのかたち—ゼロ年代以降の現代アートを中心に」 高松市美術館 (香川)
「Logical Emotion: Contemporary Art from Japan」 クラクフ現代美術館 (MOCAK) (クラクフ、ポーランド)

- 2014年 「In The Water by UnKyung Hur & Shinji Ogawa」 XVA Gallery (ドバイ、アラブ首長国連邦)
「おいしいアート食と美術の出会い」横須賀美術館(神奈川)
「Currents: Japanese Contemporary Art」The James Christie Room(香港)
- 2012年 「コレクションの誘惑」国立国際美術館(大阪)
- 2011年 「History in Art」クラクフ現代美術館 (MOC AK) (クラクフ、ポーランド)
「現代絵画の展望 24 の時の瞳」東京ステーションギャラリー (東京)
- 2010年 「150ème anniversaire de la création de 《l' Angé lus》」 (バルビゾン村、フランス)
- 2008年 「behind the seen アート創造の舞台裏」東京大学駒場博物館 (東京)
「現代のコンフィギュレーション色さまざま形いろいろ」岡崎市美術博物館 (愛知)
「ネオテニー・ジャパン高橋コレクション」(2008-10 巡回展) 霧島アートの森、鹿児島 (2008)
札幌芸術の森美術館 (2008) / 上野の森美術館 (2009) / 新潟県立近代美術館 (2009) /
秋田県立近代美術館 (2009) / 米子市美術館 (2009) / 愛媛県美術館 (2010)
- 2007年 「線の迷宮 II-鉛筆と黒鉛の旋律-」目黒区美術館 (東京)
- 2006年 「縄文と現代~二つの時代をつなぐ『かたち』と『こころ』」青森県立美術館(青森)
- 2005年 「Light Boxes Dark Rooms」Handwerker Gallery, Ithaca College、イサカ、NY州/ほか
「マックス・ヘッドルーム-頭上注意の絵画-」ヴァイスフェルト (東京)
- 2004年 「Light Boxes Dark Rooms」DePree Art Center, Hope College (ミシガン、アメリカ合衆国)
「Japanese Contemporary Art: Symbiosis in Art」Gallery Wooduk (ソウル、韓国)
「開館 20 周年記念展コピーの時代-デュシャンからウォーホル、モリムラへ-」
滋賀県立近代美術館(滋賀)
- 2003年 「現代美術のポジション 2003-吹きぬける新風」名古屋市美術館(愛知)
- 2002年 「ファン・デ・ナゴヤ美術展 2002 仲介者たち」名古屋市民ギャラリー矢田(愛知)
「20 世紀。美術は虚像を認知した-モナ・リサとモンマンとのあいだで-」平塚市美術館 (神奈川)
- 2001年 「話を作って、目を疑う/岡崎和郎初期作品とのコラボレーション」コオジ・オグラギャラリー(愛知)
「弁天奉納三人展小川信治・松岡徹・平田五郎」弁天ギャラリー (愛知)
- 2000年 「空き地」豊田市美術館 (愛知)

ワークショップ

- 2011年 「Kraków -koło czasu」クラクフ現代美術館 (ポーランド)
- 2007年 「無限風景画 3-世界をつなぐ」目黒区美術館 (東京)
- 2006年 「無限風景画 2-世界をつなごう」国立国際美術館 (大阪)
「無限風景画 1-を作ろう！」岡崎市美術博物館 (愛知)
- 2003年 「家族の肖像-分岐する世界と統合する意識」名古屋大学博物館(愛知)
- 2001年 「PERFECT SAKU ISLAND」弁天サロン (佐久島、愛知)

受賞

- 1990年 東海市 ACT9 IACT 大賞受賞

コレクション

- クラクフ現代美術館 (クラクフ、ポーランド)
東京ステーションギャラリー (東京)
東海市 (愛知)
豊田市美術館 (愛知)
岡崎市美術博物館 (愛知)
滋賀県立近代美術館 (滋賀)
国立国際美術館 (大阪)
高松市美術館 (香川)
Bunkier Sztuki (クラクフ、ポーランド)

本展に関するお問合せ

GALERIE ASHIYA SCHULE ギャラリーあしやシュール

〒659-0016 兵庫県芦屋市親王塚町 3-11 tel/fax 0797-20-6629

mail : info@ashiyaschule.com/galerieashiyaschule@gmail.com

web:www.ashiyaschule.com